

History

赤坂御用地をめぐる...

所在地は港区元赤坂、JRの四谷、東京メトロの赤坂見附、青山一丁目、JR信濃町に囲まれた広大な緑地、赤坂御用地は、かつて紀州徳川家の江戸屋敷の一部であった。天下の名園として知られた西苑がその起源である。

赤坂離宮から迎賓館へ... その移り替わり

明治5年、当時の旧藩主が、この地を皇室に献上し、後には敷地の北の一隅は赤坂離宮となった。明治6年(1873)、江戸城西の丸が火災で炎上したため、仮の皇居として使われ、明治22年(1889)、宮殿が宮城内に竣工、移転するまでの間つづいた。

わが国の洋風建築家の第一世代、東京駅などを手掛けた辰野金吾と同窓で、コ

ンドルの弟子だった片山東熊かたやまどうくまは、命を受け、欧州をつぶさに視察、明治32年(1899)、宮廷建築として東宮御所を着工した。同42年に竣工、日本唯一のネオ・バロック様式の建築である。

しかし明治天皇がこれを贅沢な建物であると云ったため、時の東宮殿下後の大正天皇は使用されなかった。大正12年(1923)、昭和天皇と皇后は、摂政時代をここで過ごされたが、その後再び空家となり、昭和20年5月の東京大空襲では、焼夷弾が多数命中した。しかし幸い消失は免れた。

戦後、昭和20年11月から数ヶ月の間、今上天皇と常陸宮御兄弟が御所にお住いになられたが、皇室財産であった赤坂離宮とその敷地は、皇室から國に移管され、東宮御所としての役目を終え、その名は「旧赤坂離宮」と称されるようになった。戦時中に焼夷弾を受けた屋根は雨漏りし、華麗さを競った天井の絵画、壁面の美術織物は傷んだままになっていった。庭園も昔日の面影を失い、荒廃していた。

部分的な手直しをされた建物は、国立国会図書館、裁判官弾劾裁判所、法務庁後の内閣法制局)、東京オリンピック組織委員会などに使用された。

国際関係が緊密になって、外国の賓客を迎えることが多くなったため、昭和37年(1962)迎賓施設を建設することが閣議決定され、昭和42年(1967)の閣議で、旧赤坂離宮を改修して迎賓施設に充てることになり、翌年改修工事に着手した。五年の歳月と百億円余りの費用をかけ、本館は村野藤吾、和風別館は谷口吉郎の設計、協力で改修された。

昭和49年(1974)、新装なって盛大に落成式が行なわれ、「迎賓館」は正式に総理府の付属機関として発足した。

近年サミットが開催されるなど、政府の重要な役割を担うようになっていく。市民には内部も公開されてきたが、本年はじめ、重要な建造物の保存計画によって、歴史を経た迎賓館は再び大規模な修理が行われることになり、工事がスタートした。完成は二年後になる。



工事中の迎賓館正面



東御門



工事前の迎賓館正面



東宮御所通用門





紀尾井坂の上からの眺望



安鎮坂を下る



東宮御所へ



外苑東通り

赤坂御用地

HISTORY

Watching ウォッチング

— 紀伊国坂を下る —



弁慶橋、後ろは赤坂プリンスホテル



東御門の前にはホテル群が立ち並ぶ
左はホテルニューオータニ



工事中の迎賓館正面

東御門



豊川稲荷